

メンタルヘルスケアを促進するネットワーキングの研究 (電子メールコミュニケーションの解析によるストレス状態の可視化)

2008.11.21~22 KEIO SFC ORF2008

慶応義塾大学 政策・メディア研究科 修士課程 野田啓一

研究の概要

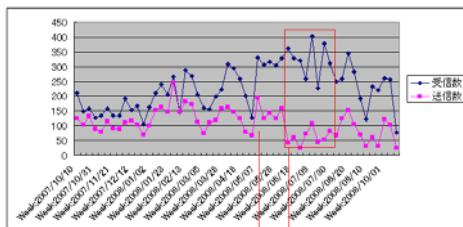
本研究は、電子メールコンテンツを分析するソフトウェアを開発し、個人のメンタルヘルス問題を早期発見するために有効な手段を研究するものです。

研究の背景

上場企業を対象とした健康増進活動に対する取り組み状況の意識調査では、従業員への健康増進活動で充実を図りたい取り組みとして82.5%の企業が「メンタルヘルス対策」の充実を図りたいとしている。一方で「うつ病」などのメンタルヘルス問題発生要因・原因の分析、予防対策有効性が不明である。本研究では、メンタルヘルス情報を抽出する方法を研究します。

研究仮説

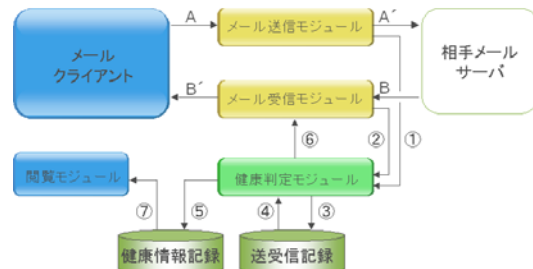
1. 電子メールコミュニケーションはメンタルヘルス状態を反映する
2. 電子メールコミュニケーションはメンタルヘルス状態変化の早期発見に有効



研究方法

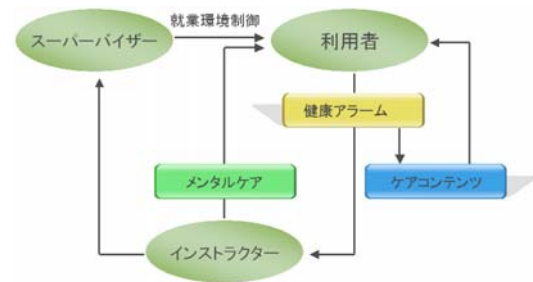
電子メールコンテンツを抽出しメール送受信

の量、レスポンス状況およびメールに含まれるキーワードを抽出するソフトウェアを開発、メンタルヘルスに問題を生じた人の電子メールコンテンツ状況とメンタルヘルス問題を生じた期間との相関関係を分析。



期待される成果

本研究の期待される成果は、メンタルヘルスに問題が生じる前兆をとらえ早期発見し重篤化を抑えることで、従業員の健康増進に寄与し、企業においては労働生産性の向上に貢献できるのではと期待する。また、従業員や管理職などのメンタルヘルス教育へ応用できるのではと期待します。



参考文献

- [1] 経済産業省,健康資本増進グランドデザインに関する調査研究報告書,2008